

認知症を 考える

— 第2回 —

落合 秀宣 先生

JA東京スマイル産業医
飯田橋駅前・あいクリニック院長
医学博士、労働衛生コンサルタント。
東京医科大学卒業。東京警察病院内科
医長を経て他病院でも内科部長、院長
などを歴任。専門は総合内科、循環器内
科、産業医学。
(HP <http://i-clinic3885.com>)



前号の特集では認知症の早期診断、早期治療が大切であることを学び、みんなで支える認知症ケアについて考えてみました。とても多くの反響をいただきましたので、今回はその続編。認知症への理解をさらに深めるためのお話をさせていただきました。

認知症なのかがどうかを確認する

— 類似した状態との鑑別 (その1) —

認知症を早期診断する上で大切なことの一つは、認知症によく似た間違えられやすい病気・状態が多数存在しているため、それらの可能性を慎重に確認して除外していくことです。それらの疾患は認知症とは異なり、治療によって速やかに改善できる場合もあります。

今回は、認知症と類似した状態との鑑別ポイントについてご紹介したいと思います。

I 正常老化における

物忘れとの違い

認知症の中核症状の代表的なものの一つが記憶障害(物忘れ)で、その特徴の一つは自覚(病識)が薄いということです。従って、物忘れを訴えて一人で受診することはなく、家族の方などに付き添われて来院

されることがほとんどです。ご本人は全く別の症状を訴えていたり、付き添いの人に無理やり連れてこられたが自分はどこも悪くはないと言いつつ張って憚然としていたりしている場合は、認知症であろうと予測できません。正常老化による物忘れの場合は、自分は認知症になったのではないかと心配して一人で受診され、精密検査を希望されることが多いようです。

認知症の場合のもう一つの特徴は、出来事そのものを忘れてしまうことです。結婚式に出席したことを忘れてしまおうとか、ご飯を食べたことを忘れてしまおうと食事をしたと言いつつ張つたりします。一方、正常老化の場合は、結婚式の日時や場所が思い出せなかったり、食事の内容を忘れてしまっても食事をしたことは覚えていて、出来事の一部の物忘れにとどまっています。そして、認知症においては、記憶障害だけではなく他の精神症状や行動障害(前回の号で説明した内容です)を伴っており、それらによって日常生活に支障をきたすようになってきます。

II うつ病との違い

高齢になると社会的な役割がなくなるのと同時に、次第に体がいうことをきかなくなり、将来介護を受ける心配、経済的な問題、家族との葛藤、友達や連合いの別れなどに直面するようになります。そしてそれら

をきっかけとして気分が落ち込んでうつ病になりやすくなります。うつ病の中心症状は、気分の落ち込み(抑うつ)ですが、老年期のうつ病は、悲哀感などの気分障害が目立たず、不眠や肩こり、倦怠感などの身体の不調や意欲の減退(アパシー)を訴えることが多く、注意力や集中力が低下してぼんやりしがちで、物忘れを自覚することもしばしばみられます。うつ病の物忘れの場合は、周囲が感じる以上に大げさに訴えることが多く、前述のように物忘れの自覚が薄い認知症の場合とは異なります。うつ病による物忘れは、比較的最近始まっていて抑うつ状態とともに物忘れも改善し一過性であることが多いのに対し、認知症では進行性・持続性に悪化していきます。さらに、会話の受け答えの特徴としては、認知症では記憶障害、認知障害などに対する取り繕い(言い訳、つくり話)、怒りが見られ、自らの能力低下を認めようとしません。一方、うつ病では、応答が遅れがちになることが多く、自分の能力低下を嘆き訴える傾向があり、



(次回につづく)

● 認知症とうつ病の違い ●

	認知症	うつ病
発症・経過	いつとはなしに発症。徐々に進行。	発症は比較的急激で進行も速い傾向。連合いの死などが引き金となるケースもある。
物忘れ	特徴的的症状だが、自覚がないか乏しい。	大きな障害はないが、物忘れを訴えることはある。
知的能力	低下する。	低下していないが、低下しているように見えることもある。
抑うつ症状	みられることもあるが、逆に攻撃的、逸脱行為、徘徊などのケースもある。	この病気の中心症状であるが、高齢者の場合意欲の減退や身体症状で現れることが多い。
会話・質問への応答	言い訳、作り話など取り繕いがみられ、能力低下を否定し、軽く見せようとする。	応答が遅れはある。「分からない」などと答え、能力の低下も訴える。
自殺願望	ほとんどない。	しばしば伴う。
症状の日内変動	ない。	午前中は不調。
社会生活	支障が出る。	多くは自立している。
抗うつ薬の効果	反応しない。	有効。

● 認知症にみられる物忘れと年齢に伴う心配いらない物忘れとの違い ●

	認知症	年齢に伴う心配いらない物忘れ
物忘れの内容	自分の経験した出来事を忘れる。	一般的な知識や常識を忘れることが多い。
物忘れの範囲	体験したこと全体を忘れる。最近の出来事を思い出せない。	体験の一部を思い出せない。覚えていたことを思い出せない(ど忘れ)。
ヒントを与えると	ヒントでも思い出せない。	ヒントで思い出せることが多い。
記憶障害の進行	緩徐に進行していく。	何年経ても悪化・進行していかない。
日常生活	支障あり。	支障なし。
物忘れの自覚	自覚していない(病識なし)。深刻に考えていない。	自覚しており、必要以上に心配する。
判断力	低下していくことが多い。	低下はみられない。
学習能力	新しいことを覚えられない。覚えようとしていない。	学習する能力は維持されている。
日時の認識	混乱していることが多い。	保たれていることが多い。
感情・意欲	怒りっぽい。意欲に乏しい。	保たれている。